

新入生合宿研修を終えて

医歯学総合病院・助教
(義歯(冠・ブリッジ)診療室) 田 口 裕 哉

今年も毎年恒例となっている新潟大学歯学部新入生合宿研修が、4月12日(土)、13日(日)の日程で新潟厚生年金スポーツセンター(ウエルサンピア新潟)にて開催されました。この研修会は歯学科および口腔生命福祉学科の新入生ならびに3年次編入生を対象としたものですが、今年の新入生参加者数は、歯学科45名(3年次編入生5名含む)、口腔生命福祉学科30名(3年次編入生10名含む)の計75名でした。参加教員は前田歯学部長をはじめとする21名が参加し、運営にあたっては事務方2名、学生アシスタントとして歯学科2年生2名、口腔生命福祉学科2年生2名の方々にもご協力頂きました。このように総勢約100名でにぎやかに行われた合宿研修ですが、新入生75名中58名が女子学生だったことには正直びっくりしました。

初日は、歯学部集合組と新大西門集合組にわかれ、おのおのバスに揺られて会場であるウエルサンピアへ向かいました。集合時間を過ぎて西門組のバスが到着しないというハプニング?があったものの、参加者全員で集合写真を撮影し、いよいよ合宿研修が始まりました。

9:30からの全体ガイダンスでは前田歯学部長、齊藤(力)副病院長のあいさつで始まり、参加スタッフの紹介の後、歯学科および口腔生命福祉学科のカリキュラム、全国共用試験、院内感染対策、学生支援に関する事柄について各担当教官から説明がありました。

続いて行われた自己研鑽セミナーIでは、魚島教授の司会のもと、全員が8班の小グループに分かれ、簡単な自己紹介などを行った後に「砂漠で遭難したときにどうするか(NASAの問題)」というシナリオをもとにしたコンセンサスゲームを行いました。この自己研鑽セミナーIでは、最寄りの居住地までは100km以上ある灼熱の砂漠に遭難した時に、所持していた12個の品物について、

この先自分たちが生き残るためにこれらの所持品をどう優先づけるかというシナリオについてグループで討議し、集団討議の方法について学んでもらいました。12個の品物は、懐中電灯、航空写真の地図、大きいビニールの雨具、磁石の羅針盤、弾薬の装填されている45口径のピストル、赤と白のパラシュート、ガラス瓶入り食塩(1000錠)、1人につき1リットルの水、「食用に適する砂漠の動物」という本、1人1着の軽装コート、化粧用の鏡、約2ℓのウオッカです。皆さんはどのような順位づけをしますか? ちなみにNASAの解答は、上記の並び順に4→9→6→8→7→5→12→3→10→2→1→11です。NASA解答と新入生たちの導いた結果はだいぶ違っていたようです。

昼食後は13:30~17:00まで、自己研鑽セミナーとして「面接試験にもの申す「異論/反論/オブジェクション」」面接試験での問題点と対策を検討する—という内容でグループ討議を行いました。ここでは面接試験の良い点や問題点の抽出、問題点の対策の検討などをK-J法や二次元展開法といった手法を用いて各グループで討議し、最終的に討議の結果をグループごとに全員の前で発表してもらいました。この発表内容(新入生の生の声)は教授会でも報告され、新潟大学歯学部の面接試験に反映されているようです。

入浴・自由時間を過ごした後は、懇親会を兼ねた夕食の時間です。みんなハードなスケジュールをこなした充実感からか会は大いに盛り上がりました。特に盛り上がりを見せたのが、毎年恒例の先輩達によるクラブ紹介でした。パソコンを使用したプレゼンテーションあり、実演ありと先輩達の部員獲得への気合いが感じられました。冒頭にも書きましたが、男子新入生が少ないので男子部、特に団体競技部による男子新入生争奪戦は鬼気迫るものがありました。楽しい夕食時間終了後は、

教職員との懇談、履修相談をしたりと各々自由に過ごし、1日目の合宿研修を無事終え、就寝となりました。

2日目は起床後、朝食をとり、クラス幹事選出などのガイダンスを終えて、2日目のメインであるBLS講習を行いました。今年から始まったBLS講習ですが、BLS(basic life support)とは、意識を失った傷病者が発生した場合に、器具や薬剤を用いないで行う一次救命処置のことです。BLSを行う目的は二次救命処置が始まるまでの間、脳や重要臓器への酸素の供給を絶えないようにして救命率を上げることとされています。

講師の歯科侵襲管理学分野准教授瀬尾憲司先生による一連の流れ、やり方の説明の後、新入生全員で班ごとにマネキンを用いて救命処置を実践しました。意識の確認や気道の確保、呼吸の有無の確認の仕方、人工呼吸、循環サインの確認、心臓マッサージなどが主な内容です。これらに加えてAEDの使い方も学んでもらい、おもちゃではありますが実際にAEDも使用してもらいました。AEDとはAutomated External Defibrillatorの略で、自動体外式除細動器と言います。これは心停止した心臓に強い電気ショックを与え心臓の動きを正常化させるために用いられま

す。AEDの使用は一般市民にも認められており、最近では街中のいたる所で見かけます。心停止発生から1分ごとに救命率が7～10%下がると言われており、いかに早く救命処置を行うかが生死を分けることとなります。医療者としての第一歩を踏み出した新入生には格好の講習だったようで、みんな真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

BLS講習をもって新入生合宿研修全てのプログラムは終了し、皆無事に帰路へつくこととなりました。新入生の皆さんには、これから始まる長い学生生活で、楽しいことや苦しいことなどいろいろな場面に遭遇すると思いますが、今回の合宿研修をみんなで協力して乗り越えたように、楽しいことはみんなで分かち合い、苦しいことはみんなで助け合う、仲間を大事にする集団になって欲しいと願います。縁あって同級生になったのですから……。これから待ち受ける数多くの試験と実習を自分1人で乗り切るなんて無理ですよ。

最後に余談ですが、1日目の朝、新入生の引率係だった私も新入生の集合場所へ向かったのですが、新入生の出欠を確認していた学務係係長の安達さんに「君、君、学籍番号と名前は？」と言われてちよっぴり嬉しかったです。



